

ぼくの震災日記

3月11日 金曜日

学校の帰りに大地震おおししんがおきました。その時ぼくは遊歩道ゆうほどうを歩いていて、立っていることができなくて友だちとかたまってすわりました。ぐらぐら地面じめんがゆれてこわかったです。近くの家の人、「早く帰りな。あぶないよ。」と言ってくれたので、ほそうブロックがぼこぼこになっていた所ところを走って帰りました。家に帰ったら物ものがごちゃごちゃになっていたり、水そうの水があふれていました。

大津波警報おおつなみけいほうが出ていたのでひなん所じよに行こうと用意よういをして外に出たら、ゴオーッと音がして、電柱でんちゅうや材木ざいもくがすぐそばまで、黒い波なみといっしょにせまってきていました。

するとおじいさんが、「家に入れ。上にあがれ。いそげ。」とさけんだので、おばあさんとぼくと3人かいたんで階段かいたんをかけあがりました。あっという間に、まどガラスをやぶって水が家の中に入ってきました。その水においかけられるように、ぼくたちは2階、3階へいそいで走りました。もうだめかと思ったら3階のホールにすれすれの所で水が止まりました。「ああ、たすかったあ。」

3階のベランダから海の方を見ると、2階だての家や大きな材木れいや冷ぞ

うこなど、いろいろな物が流ながされて来ました。流されてきた家がぼくの家あなにぶつかって2階のかべに大きな穴あながあきました。その後、大きな津波が2回来ましたが、何もぶつからず流れて行きました。北がわのやぶれたかべから外を見ると、門脇町かどのわきがもえはじめていました。

(作文宮城 60号 特別編『あの日の子どもたち』より)

